

派遣報告書

平成30年3月30日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会
(代表) 議員 大津 昌 克



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1 派遣期間 平成30年3月26日(月)から平成30年3月28日(水)まで
- 2 派遣先 (1) 岡崎市役所(愛知県)
(2) 可児市議会(岐阜県)
(3) 鳥取県名古屋代表部(愛知県名古屋市)

- 3 視察(調査)議員名 大津昌克、福谷直美、大月悦子

- 4 面会者 (1) 岡崎市議会議長 加藤義幸氏、事務局係長 近藤景介氏
岡崎市経済振興部商工労政課商工振興係係長 天野正徳氏
主事 橋本拓哉氏
" (2) 可児市議会議長 川上文浩氏、副議長 勝野正規氏
可児市議会議員 高木将延氏、天羽良明氏、事務局長 杉山修氏
(3) 鳥取県名古屋代表部部長 吹野之彦氏

- 5 派遣目的 (1) 岡崎市「岡崎ビジネスサポートセンターについて」
(2) 可児市「議会改革・主権者教育について」
(3) 鳥取県名古屋代表部「業務内容全般について」

- 6 視察の経過及び感想 別紙「行政視察報告書」参照

- 7 添付書類 (1) 面会者名刺(写)
(2) 行政視察報告書

要した経費： 3 人合計 198,420 円

(別紙)

会派くらよし・アイズ、草の根、倉吉自民共同及び会派つばき

「行政視察報告書」

(視察の経過及び感想)

日時 平成 30 年 3 月 26 日 (月) ～28 日 (水)

議員 大津昌克、福谷直美、大月悦子

(1) 岡崎市 3 月 26 日 (月) 14:00～15:30

「岡崎ビジネスサポートセンター」について

岡崎市は愛知県のほぼ中央部に位置し、人口約 39 万人の中核都市である。愛知県といえは世界のトヨタを有し、県内全体の産業構造がトヨタを頂点とするトヨタグループピラミッドで形成されているといっても過言ではない。また、岡崎市はそのトヨタ自動車の中核機能を持つ豊田市に隣接しており、岡崎市周辺にはトヨタ関連企業が多いため、近年は住宅地を次々と造成しベッドタウンとしての性格が強くなりつつあり、人口も増加傾向にある。



そんな世界のトップ企業の恩恵を受ける中、日本で初となる自治体主導の中小企業相談センターを開設し、既存の企業の経営支援や起業のための相談業務を行っている。この度の行政視察では、その「岡崎ビジネスサポートセンター(通称 Oka-Biz(以下、オカビズ))」の取り組みを調査し、倉吉における経済活性化に向けてのヒントを調査するため視察先に選定した。

まず事業概要であるが、オカビズは岡崎市経済の底上げを図るため、平成 25 年 10 月に商工会議所との連携により開設した、中小企業や起業家の課題解決を支援する相談拠点である。また、平成 26 年 5 月に岡崎信用金庫と連携の覚書を交わし、産官金連携で運営している。ビジネス支援の専門家が、「きく」「みつける」「ささえる」をテーマに、事業者のチャレンジを本気で支援し、また、毎月各界のトップランナーや実践的ノウハウを持つ専門家を招いてのセミナーも開催している。相談件数





は、開設から3年間で5,500件を超え直近では当初目標の3倍以上となっており、多数の視察や報道取材を受けるなど、多くの方々に支持されている。さらに、平成27年には内閣府「女性のチャレンジ支援賞」を受賞し、女性起業家の支援にも力を入れており、国（中小企業庁）の地域産業支援の目玉事業「よろず支援拠点」のモデルの一つとして全国から注目されている。

では次に、冒頭にも触れた通り世界のトヨタの恩恵を受ける中、何故、岡崎市はオカビズを開設しなければならなかったのか、その背景に触れてみたい。

全国における中小企業の割合は99.7%であり、企業のほとんどが中小企業であることは公知の事実である。トヨタの恩恵を受ける岡崎市といえども、市内にはやはり99%以上が中小企業であることはいうまでもない。岡崎市の過去20年くらいの小売業等の統計では、事業所数、従業員数、販売額、売場面積別商店数等において、いずれも減少している。地方自治の原点は、住民福祉の向上であり、まちの経済活性化は、やはり元気な地元中小企業を育成することである。この原点に立ち返り、地元産業支援に向けて、まずは各事業者の経営課題についてアンケート調査した。結果として、概ね次のような課題が浮き彫りになった。①もっと売り上げを伸ばしたい、②情報発信、③新商品の開発に力を入れたい、である。

しかしながら事業者は、それぞれの課題を把握しているにも関わらず、約6割強が定期的な経営相談を行っておらず、また経営相談をしていたとしても、税務会計がほとんどで、販路拡大や新商品開発、さらに情報発信については誰に相談してよいかわからないというのが現状であった。

そこで岡崎市は、全国的な成功事例である「富士市産業支援センターf-Biz」（以下、エフビズ）に着目する。このエフビズでは、起業・経営相談、セミナー・講演会、地域産業支援機関へのコーディネート等を行っており、実績として現在年間4,000を超える企業、起業家からの相談（他地域では年間数10件～数100件たらず）を受け、11年間で850件の新規事業立ち上げをサポートしている。

このような経過をたどり、岡崎市は2013年10月に日本で初となる、自治体主導のf-Biz型中小企業相談センターを開設し、売上アップを支える個別相談、トップランナーによるセミナーに重点を置き、活動を開始したのである。



特筆すべきはセンター長を年間 1,200 万円という破格の報酬で全国公募し、そのセンター長の個人的人脈等で、超有名なセミナー講師の招聘や協力者を得ている点である。これこそ民間のなせる業であり、多額の報酬も成果に表れているといえる。

したがってオカビズの運営は民間業者に委託されており、オカビズ自体の雇用創出も図られ、また、相談件数は解説 3 年間で当初目標の 450%を超えている。オカビズでは、中小事業者のさまざまなニーズに応え、多数の実績や成功事例をもち、メディアからの取材も多い。

レクチャーを受けた後、実際にオカビズに赴き、その様子や雰囲気を経験した。平日の昼間であるが、多くの人々が相談に訪れていた。また、気軽に入れるオープンスペースの空間に加え、スタッフがカジュアルな装いでかしまった感じが無い。若い方から年配まで幅広い年齢層が活用し、活気が感じられた。



最後に、年間に 6,000 万円余の予算の内 100%を一般財源で賄い、それでも地元企業を支援するのは、数年後の未来に向けて確実に効果が期待できるからだそうだ。現に、少しずつではあるが税込増や、雇用増に数字が反映しているとのこと。また、このオカビズの取り組みは全国に広がっており、人口規模や産業構造

ともに多様な地域に普及している。近くでは島根県邑南町での取り組みも見られる。



はたしてこれらの取り組みが即、倉吉市に活用できるかは、更なる研究も必要であろうが、何もしなければ結果はゼロである。チャレンジすることを恐れずに、夢を実現できるよう取り組みを検討し政策提言につなげたい。

(2) 可児市 3月27日(火) 14:20~16:20

「議会改革・主権者教育について」

可児市は、岐阜県の中南部に位置し、古くから飛騨路および木曾路への重要な結接点となっている。県庁所在地である岐阜市や中部圏の中核都市である名古屋からともに30kmの距離にあり、JR 太多線、名鉄広見線で、との概ね1時間の位置にある。昭和40年代後半から名古屋圏のベッドタウンとして丘陵地を中心に民間



開発による大規模な住宅団地の建設が相次ぎ、急速に人口が増加した。また、平成17年5月1日には、飛び地である兼山町と合併し人口も10万人を超え、可茂地域の拠点都市として発展をしている。

この度の視察では、可児市議会の取り組みとして「議会改革・主権者教育」について調査をすることとした。なぜならば、議員及び議会にとって、議会改革・活性化とは、永遠のテーマであり、市民の代表たる多人数による合議制の機関として、市民の意思を市政に的確に反映させるためにも、不断の努力をもって取り組んでいかなければならない重要なテーマであることは、もはや言うまでもないことだからである。



この「議会改革」は、北海道栗山町による平成18年5月18日制定の「議会基本条例」に端を発することになる。今から12年前のことである。栗山町ではさらに遡ること5年前の平成13年9月からその議論に入り、「町民に開かれた議会づくり」に取り組んできた経過があり、議会改革のパイオニアといえる。その栗山町をはじめとする動きを「議会改革の第1ステ

ージ」とするならば、10年以上経過した現在は既に「議会改革の第2ステージ」に入ったといえよう。全国各地にこの議会改革のムーブメントは広がりを見せ、議会基本条例を設置した自治体は少なくない。その後、毎年のように議会改革が検討され、内容が改善進化を遂げている。

そんな中、ここ可児市は「議会改革第2ステージ」のトップリーダーともいえる取り組みを行っている。倉吉市議会においても当然ながら、この議会改革は必須の課題であることはもちろんであるが、その進捗については未だ具体的成果には至っていない。そこで今回の目的は「議会改革第2ステージ」の最先端であ



る可児市に赴き現場を研究調査することである。ぜひとも現場の熱い議論に触れ情報交換することで、少しでも改革の動きを倉吉市議会に持ち帰りたいとの熱き想いである。当日は、先約として和歌山県新宮市議会の議会改革特別委員会のみなさん10名（他随行職員1名）の視察であったが、合同研修を快く受け入れていただき感謝するばかりである。

可児市議会の議会改革の歩みは、平成15年9月の議会活性化特別委員会の設置に始まる。その後、様々な検討・改革が実施され、名城大学都市情報学部へのゼミ参加や、議会基本条例調査研究PT設置などを経て、平成24年12月に議会基本条例を制定する。具体的内容としては、予算決算委員会（議長と監査委員を除く全員）の設置、ICTの活用、議会報告会などを実施しPDCAを行い、条例を現実のものとするよう努力を続けている。中には議論充実のための取り組みとして「反問権」「議員間自由討議」の採用や、議場にモニターを設置しPC等を活用した一般質問などを行っている。市民に分かりやすく、市民の声を議会に反映させることを念頭に、常にその改善・改革に余念がない。現在では広報誌「議会のトビラ」をリニューアルするとともに、ITC活用（ユーチューブ動画配信等）による情報公開はかなり充実している。さらには高校生議会を開催し、主権者教育やキャリア教育支援を行うとともに、ママさん議会なども開催し、市民にとって必要なことを、必要としている人たちから直接聞くシステムをとっている。また、議場を一般開放し議場コンサートなどにも利用できるなど、議会だけでなく、まず議場に足を運んでもらえるような仕組みも導入している。なにより、視察の説明は議員で対応していただいたが、その議員さんが生き活きとしており、議員自らが変わろうとする姿勢が見て取れた。

視察を終え、世の中の議会改革の進捗に、強い驚きと衝撃を感じざるを得なかった。とにかく地方自治の活性化に向け、二代表制における議会機能の充実化は急務の課題である。昨年の市議会議員選挙に続き、先日の市長選挙の投票率にも見られるように、政治離れの傾向に拍車がかかっている。地方自治の本旨とはなにか、住民福祉の向上とは何か、常に住民の立場に立った議論を行い、住民と共にまちづくりを実践するために、さらなる研鑽に努めたい。そのためには議会の力を一つに集約し団結することも必要である。まずは会派内研修を充実させ、議会へ提案していきたい。



(3) 鳥取県名古屋代表部 3月28日(水) 10:00~11:30

「業務内容全般について」

鳥取県は東京本部、関西本部に続き、名古屋代表部が置かれている。倉吉市は地理的な背景もあり、企業誘致や進学など、関西とのつながりが大きい。この度、一宮市を拠点とするフィギアメーカー「株式会社びーふる」の進出もあり、中京圏への視野拡大も含め、鳥取県名古屋代表部の業務全般につき視察調査を行うこととした。名古屋代表部の概要については HP で知ることができるが、なにより実際に訪れてみることで、名古屋をはじめとする愛知県、中京地区の特色を肌で感じることができた。やはり愛知県の産業構造は、トヨタをトップとするピラミッド構造が確立されており、他の追随を許さないといったところだ。トヨタの関連で、世界のトップシェアを誇る会社も多数あり、なかなかその懐に飛び込むのは至難の業といえよう。しかしながら、鳥取出身や、地元高校や大学の卒業生などが、そのトップ企業の重役であるケースも少なくないようで、それらの人脈を頼り、繋がりを拡大することは可能性としてはゼロではないようだ。



さて、鳥取県名古屋代表部の主な業務は、観光、企業誘致、販路拡大である。前述のとおり、地理的条件や人脈からいっても、中京圏とのつながりは太いとはいえない。実際、中京圏に進学する学生数も、関東、関西に比べると少数であるが、東海地区県人会を有し人的交流や経済交流もある。現在名古屋代表部では、鳥取県の PR に力を入れ、各所イベントの参加や物産展の開催、観光情報の発信等を行っている。例えば観光について検討してみると、愛知から山陰は「遠い」、「時間がかかる」というイメージがあるようで、なかなか目を向けてもらえない。むしろ近くに長野、北陸、関西があり、東京まで新幹線で約1時間40分であり、近い将来リニアモーターカーが出来れば40分となり、もはや通勤圏域である。

そんな中、倉吉と名古屋の関りも模索すると、やはり人的縁によるものが重要ではないかと思われる。この度の、株式会社びーふるとの交流を皮切りに、物流や人的交流が活性化すれば、この東海地区は宝の山となるかもしれない。東海地区は自治体としても特色ある自治体が多く、目を見張るところである。今後、関西に加え東海地区へも関りを持つことで、倉吉との「WIN WIN」を実現するよう相乗効果を期待したい。

最後に、各視察先様におかれましては、年度末にも関わらず快く受け入れていただき心より感謝を申し上げます。実際に現地に行くことで可能となる出会いと発見は、私たち議員にとって大きな学びとなりました。今後、学んだことを実践に活かし、市政に還元してまいりたいと思います。研修に行かせていただき、ありがとうございました。